

..... 編集後記

◆ すぐにでも防災・減災に役に立てようという地震の研究として、P波とS波の到達時間差を利用した直前警報システムがあります。これは、編者の記憶にあるだけでも相当昔から検討されていました。最近もまたニュースになっています。一方、息の長い地震予知として、活断層の活動周期から、つぎの地震を予知するという研究があります。得られた結果は、将来の500年間に地震が起きる確率が1%などという形で発表されています。

◆ 本特集で紹介されている研究は、その対象とする時間はそれらの中間に相当するでしょうか。いわゆる直前予知を志しています。難しいので、どちらかという地味な研究が多いようです。特集号を組むに当たって、基礎的な研究をしている研究者は、その成果を広く知ってもらえるような活動はあまり好きではないかも知れないと心配しましたが、蓋を開けてみると、そこにはたくさん原稿がありました。

◆ 1995年の兵庫県南部地震発生前の、所内の地震研究たつき、が思い起こされます。地下水を測って何がわかるのか、地震予知などできないのではないかと、そんな無駄な研究に予算を使うのはけしからん(その分、自分の研究に予算をまわせ)、等々の意見が飛び交っていました。6千余人の犠牲者とともに、それらの意見もなくなりました。しかしながら、直前予知の研究に対する一般の風当たりは、それ以上に強くなりました。本特集号の著者は、その強い風に立ち向かっている人たちです。少し難しい話もあるかもしれませんが、御読下さい。

◆ 最近、新聞などで、きれいな石の販売広告をよく見

かけます。そんなに買う人がいるのかねと、少しだけ関係のある業界にいる編者としては気になります。広告の説明文を読むと、いささか地学の常識とは違うかな、と思ってしまう部分もあります。でも、この場合は、きれいであればよいのでしょうか。鉱物の研究者は、標本をこのように取り扱っていますという紹介があります。同じものでも、立場が違えば、見方は異なります。どっちが面白いかって、そこは、また、それで問題です。

◆ 世界最古の生命体、となると、テレビや新聞でも報道されることが多く、現地に行ったことはないけれども、話だけは聞いたことがある方は多いのではないのでしょうか。幸運にも現地を訪れた研究者の報告があります。今は寒いのでしょうか、その生命体さんが生きていたころはどんな環境だったのでしょうか。

◆ 地中から噴き出し流れる溶岩は、普通、珪酸塩からなります。ところが、世の中にはそうでないものがあります。それは何でしょう。クイズです。答えは、炭酸塩、硫黄、鉄鉱石でした。でした、のところが問題です。そうではないという意見があり、論争になっています。火山の災害と恵みの点から考えると、鉄鉱石の溶岩が流れてくるのであれば、歓迎しますのでぜひ当地にと思ふ方も多いでしょう。そう思ふ人のところには役立たずの珪酸塩がドロドロと。

◆ チュキカマタ、それは編者にとっては地学ではなく、地理の教科書で目にする名前でした。それから何十年、まだ採掘されていることがわかりました。さらにこれからの何十年間にどうなるかが記されています。歴史物です。(須藤 茂)

地質ニュース編集委員会

委員長：須藤 茂

副委員長：谷田部信郎

委員：高木哲一・丸山 正・中島 隆・
光畑裕司・飯笹幸吉

連絡先：地質調査総合センター 地質標本館
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1
Tel. 029-861-3754
Fax. 029-861-3569

地質ニュース	第596号	2004年	4月号
	定価 ¥785 (本体価格 ¥748) 千実費		
2004年4月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所		
発行人	株式会社 実業公報社		
	代表者 林 光生		
発行所	株式会社 実業公報社		
	東京都千代田区九段北1の7の8 〒102-0073		
	Tel.(03)3265-0951 Fax.(03)3265-0952		
	E-mail: jk@jitsugyo-koho.co.jp		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社 エアフォルク		

© 2004 Geological Survey of Japan

●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンターに常備してあります。また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ